

都道府県番号	42
都道府県名	長崎県

(    )  
 該当する観点にチェックすること

・学校の概要（平成14年4月現在 実施計画書から）

波佐見町立中央小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	3	2	3	1	15	23
児童数	52	73	63	82	56	81	1	408	

・実践研究の概要

<p>主題（テーマ）          「確かな学力の定着・向上をめざした学習指導のあり方」</p> <p>仮説          ・確かな学力の向上をめざすために、きめ細かな学習指導の在り方を研究し、実践、検証を繰り返していくことで、確実に基礎・基本、確かな学力が定着し、「生きる力」をはぐくむことができると考える。</p>
---

・実践研究の内容について

( ) 研究体制の工夫

平成14年度の研究テーマ

- (1) 育てたい児童像に則して、児童の実態を多面的に把握し、「学力」に関する課題を明らかにする。
- (2) 各教科の視点から、「基礎・基本」「確かな学力」とは何かを捉え直し、その向上のための教材・指導方法を研究する。

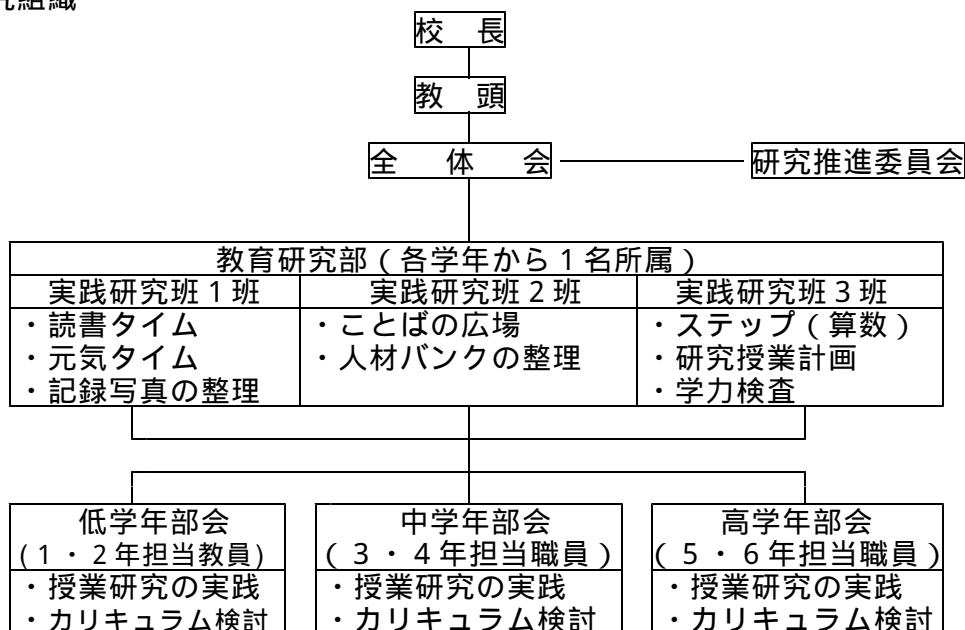
実践方法等の共通理解

研究推進委員会の構成

校長，教頭，教務主任，学力向上フロンティア主任

各実践研究班代表者（3班）

研究組織



配慮した点

- ・全職員で研究を推進していくことを確認し点研究授業も全学年で実施することとし

た。

(研究授業の年次計画を立てる。)

- ・すべての研究授業終了後、全員参加の授業研究会を行うこととした。
- ・授業研究会では、講師を招へいし、指導助言を仰ぎながら研究を深めることとした。

## ( ) 実践研究の内容

研究内容

- ・きめ細かな学習指導のために

個に応じた指導のための教材開発

「ステップ」「ことばの広場」の時間の改善・充実，  
授業での活用法，授業での教材研究

個に応じた指導のための指導方法

効果的なＴＴによる指導や効果的な少人数化指導の研究，  
指導体制の工夫改善の研究  
習熟度別学習の方法や体制の研究

児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善

評価規準の作成・改良，授業中の評価計画  
指導案の中にも評価計画を書き入れる

児童の実態の多様な面からの把握

学力テスト，学習に対する意識調査  
親子がんばりカード（基本的な生活習慣に関して）  
上記調査等の分析と効果的な活用法の研究

では，評価規準や具体の評価規準表の作成を全職員で手分けをし，協力して作成する。（全教科，3月中旬に完成予定）

また，評価方法については，児童の実態や単元に応じて，各学年で研究を深める。

## ( ) 研究と課題

**成果**

### (1) 研究全般について

- ・全職員が授業を通して，共通理解を図り，本研究に向け一丸となって取り組むことができた。（専科〔音楽〕，特殊学級も研究テーマに基づき，研究授業を実施）
- ・教育研究部を3班に分け，各班の具体的な取り組みを明確にすることで，研究を共同体制で進めることができた。
- ・講師招へい授業を通して，研究の構想・進め方等の授業研究が深まった。

### (2) 評価について

- ・研究を進めていく中で，いろいろな評価方法の実践が試みられた。

例えば，

形成的評価を，ＴＴの学習形態の中でより詳しくする実践。

診断的評価の大切さを学び，学習意識調査（算数科に関すること），既習事項についての習熟度を測る診断テストを実施し，分析することで指導の工夫改善や評価に役立てることができた。また，レディネステストやブレテスト等を行い，より細かいデータをもとに学習を進めることができた。

- ・全教科にわたって具体の評価規準表の作成を行うことで，評価に関する研修を行うことができた。

**課題**

### (1) 研究全般について

- ・授業研究を中心に，全職員で共通理解を図りながら研究を進めてきた。研究の方向性や進め方が少しずつ固まっていく中，研究協議の際の講師の御指導を受けながら，改善を積み重ね，深まってきた。今年度を土台として，さらにきめ細かな学習指導（教材開発，指導方法，評価等）の在り方の研究を進めていきたい。
- ・「わかる」「できる」「楽しい」を，児童に体感できるように授業改善を進めていく。
- ・カリキュラム，評価規準，具体の評価規準，通知表の見直し，改善をしていく。

(2) 評価について

- ・本校がめざす個に応じた指導を行うためには、事前に多様な面から一人一人の児童の実態を細かく把握することが大切である。そのためにも、事前の評価のあり方をさらに充実させ、また、事前の評価 形成的評価 事後の評価という流れの一層の関連を図る。
- ・学習実態調査や評価に関する診断テスト等の継続と比較研究
- ・評価規準の評価内容と各1時間単位の評価内容との関連性
- ・各単元における具体的評価目標の設定

( ) 成果の普及方策

(1) 研究発表会(中間発表)の開催

予定期日 平成15年11月7日(金)  
場 所 波佐見町立中央小学校  
テ - マ 「確かな学力の定着をめざした学習指導のあり方」  
対 象 すべての教職員

(2) 研究実践記録(研究紀要,指導案,VTR等)を各学校の要望により,提供する。

1年	1組	(算数 - 「ひきざん(くり下がりのある減法)」)	指導案・VTR提供可
2年	1・2組	(算数 - 「1000より大きい数」)	指導案・VTR提供可
3年	1・2組	(算数 - 「総学 - 「広げようやさしい心(福祉教育)」)	指導案・VTR提供可
4年	3組	(算数 - 「分数」)	指導案・VTR提供可
	2組	(音楽 - 「歌っておどって」)	指導案・VTR提供可
ひまわり学級		(特殊学級 - 「自立活動」)	指導案・VTR提供可
5年	1・2組	(算数 - 「分数のたし算とひき算」)	指導案・VTR提供可
6年	1・2・3組	(算数 - 「分数のかけ算」)	指導案・VTR提供可

(3) 本校HPの中に,学力向上フロンティアスクール事業の取り組みのページを追加し,本校の研究の概略を広く知らせる。(平成15年3月中までに追加予定)

長崎県東彼杵郡波佐見町立中央小学校ページアドレス

(<http://www.hasami.nagasaki.jp./chuo/>)

( ) その他

第6学年において,個に応じた算数の授業の学習計画を作成するにあたって,児童の実態把握が特に大切であるという視点で,次の方法で単元の学習に前に評価を実施したことを紹介する。

算数に対する意識調査(算数アンケート)

既習事項について習熟の度合いを確かめる診断テスト診断テスト(各学年の各領域)を実施した。

レディネステスト(分数の内容に絞って)

プレテスト(本単元で学習する内容)

これらの結果から,児童の算数に対する意識の考察,全体の習熟の様子やどの児童がどの学年のどの領域でつまづいているのかを細かく把握したり,分数の内容の習熟度の確認などができ,それをもとに単元の指導計画を立案した。